

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／海外／債券
設定日	2014年4月4日
信託期間	2014年4月4日～2024年4月8日（約10年）
運用方針	マザーファンドへの投資を通じて、ニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品に投資を行うことにより、安定的な利息収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。
主要運用対象	短期NZドル債オープン（資産成長型） <ul style="list-style-type: none">短期NZドル債マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。 短期NZドル債マザーファンド <ul style="list-style-type: none">ニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
投資制限	短期NZドル債オープン（資産成長型） <ul style="list-style-type: none">株式への実質投資は行いません。外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 短期NZドル債マザーファンド <ul style="list-style-type: none">株式への投資は行いません。外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。
分配方針	毎年3月、9月の7日（休業日の場合は、翌営業日）の決算日に、収益分配金額は経費控除後の利子・配当収益および売買益（評価損益も含まれます。）等の中から、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合等には分配を行わないことがあります。 *分配金自動再投資型の場合、分配金は税金を差し引いた後自動的に無手数料で再投資されます。

運用報告書（全体版）

第5期

決算日 2016年9月7日

短期NZドル債オープン （資産成長型）

受益者の皆様へ

毎々、格別のお引き立てにあずかり厚くお礼申し上げます。

さて「短期NZドル債オープン（資産成長型）」は、去る2016年9月7日に第5期の決算を行いました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

ホームページアドレス

<http://www.daiwasbi.co.jp/>

お問い合わせ先

受付窓口：（電話番号）0120-286104

受付時間：午前9時から午後5時まで（土、日、祝日除く。）

※お客様のお取引内容につきましては、ご購入された販売会社にお問い合わせください。



大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

東京都千代田区霞が関三丁目2番1号

短期NZドル債オープン（資産成長型）

設定以来の運用実績

決算期	基準価額			Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算)		公社債組入比率	債券先物組入比率	純資産額		
	(分配落)	税金配	込金	騰落	中率					
(設定日) 2014年4月4日	円 10,000	円 —	円 —	% —	10,000	% —	% —	百万円 25		
第1期 (2014年9月8日)	9,959	0	△	0.4	9,973	△	0.3	96.4	—	322
第2期 (2015年3月9日)	10,378	10		4.3	10,374		4.0	92.9	—	323
第3期 (2015年9月7日)	8,950	0	△	13.8	8,985	△	13.4	95.1	—	263
第4期 (2016年3月7日)	9,342	0		4.4	9,439		5.1	95.5	—	274
第5期 (2016年9月7日)	9,206	0	△	1.5	9,349	△	1.0	97.2	—	384

Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算) とは、Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (ニュージーランドドルベース) を委託者が円換算し、設定日を10,000として指数化したものです。

* 設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を記載しています。

* 基準価額の騰落率は分配金込み

* 先物組入比率は、買建比率-売建比率

* 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、各組入比率は実質組入比率を記載しています。

当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算)		公社債組入比率	債券先物組入比率
		騰落率	(参考指数)	騰落率		
(期首) 2016年3月7日	円 9,342	% —	9,439	% —	% 95.5	% —
3月末	9,464	1.3	9,574	1.4	91.4	—
4月末	9,229	△1.2	9,329	△1.2	96.9	—
5月末	9,068	△2.9	9,178	△2.8	97.4	—
6月末	8,923	△4.5	9,047	△4.2	91.4	—
7月末	9,073	△2.9	9,213	△2.4	93.1	—
8月末	9,144	△2.1	9,283	△1.7	97.0	—
(期末) 2016年9月7日	9,206	△1.5	9,349	△1.0	97.2	—

* 騰落率は期首比です。

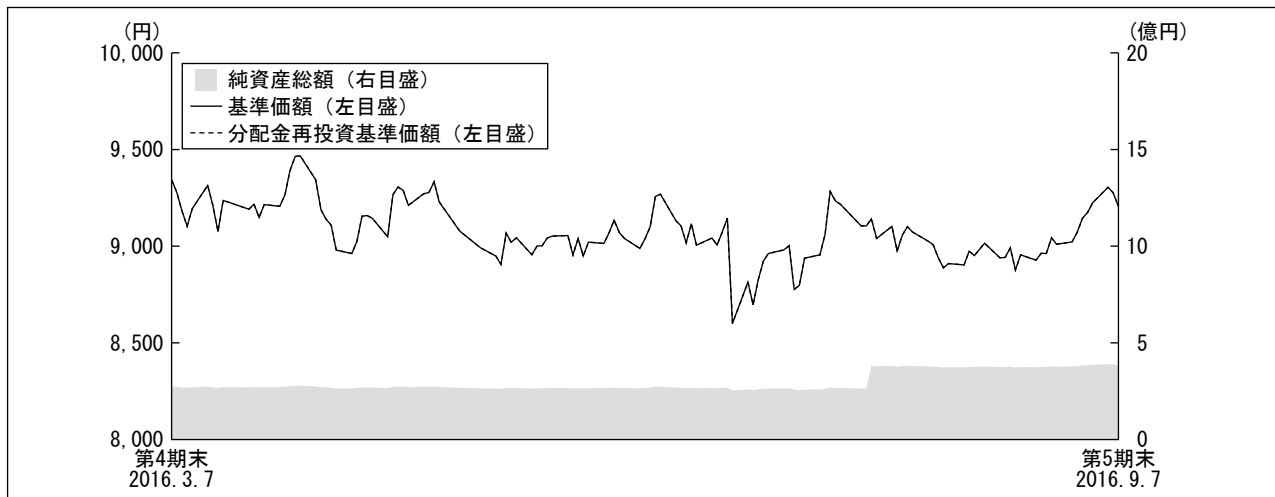
* 先物組入比率は、買建比率-売建比率

* 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、各組入比率は実質組入比率を記載しています。

短期NZドル債オープン（資産成長型）

運用経過

【基準価額等の推移】



*当ファンドにはベンチマークはありません。

*分配金再投資基準価額は、期首の基準価額を基準に算出しております。

*分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

*分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

第5期首：9,342円

第5期末：9,206円（既払分配金 0円）

騰落率：△1.5%（分配金再投資ベース）

【基準価額の主な変動要因】

当ファンドは、短期NZドル債マザーファンドへの投資を通じて、ニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品へ投資を行いました。

（上昇要因）

ニュージーランド準備銀行（RBNZ）が緩和的な政策スタンスを維持したことや、世界的な金利低下基調の影響を受けてニュージーランド債券利回りが低下（価格は上昇）したことが上昇要因となりました。とりわけ、2016年6月に英国が国民投票で欧州連合（EU）離脱を決定した後に金利低下が加速し、8月のRBNZ理事会で追加利下げが実施されるまでニュージーランド債券利回りの低下基調が続きました。

（下落要因）

ニュージーランドドルが期首の77.21円から期末に75.11円へ下落したことが下落要因となりました。ニュージーランドドルは、良好な経済ファンダメンタルズを反映して対米ドルでは上昇基調となりましたが、英国のEU離脱決定や日本銀行のマイナス金利政策の影響からそれを上回るペースで円高が進行し、対円で下落しました。

短期NZドル債オープン（資産成長型）

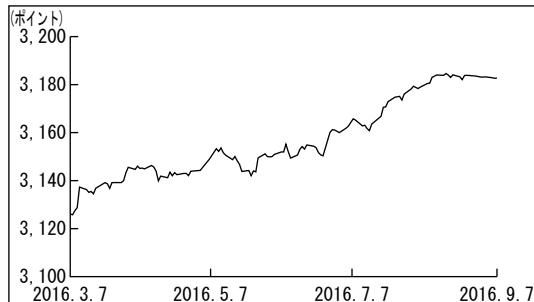
【投資環境】

当期のニュージーランド債券市場は、世界的に金利低下基調が続いたことやRBNZが積極的な利下げ姿勢を維持したことを背景に、ニュージーランド債券利回りの低下（価格は上昇）基調が続きました。

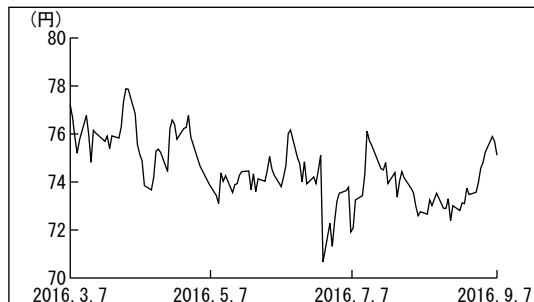
RBNZは3月と8月に利下げを実施し、政策金利を2.5%から2.0%へ引き下げました。3月は利下げを見送るとの見方が優勢でしたが、RBNZはインフレ期待の低下を理由にサプライズ利下げを実施し、短期主導で債券利回りは低下しました。また、日本や欧州がマイナス金利を導入した影響や、米国が利上げを急がない姿勢を示したため、世界的な金利低下基調が持続したことに加え、6月の英国のEU離脱決定を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったことも金利低下の要因となりました。その後、8月のRBNZ理事会では市場の予想通り利下げが実施されたものの、声明文では短期金利見通しが小幅の引き下げにとどまったため、期末にかけて金利低下は一服しました。

為替市場では、ニュージーランドドルは良好な経済ファンダメンタルズを反映して対米ドルで上昇となりましたが、日本銀行のマイナス金利導入の影響でそれを上回るペースで円高が進行したことから、対円では小幅下落となりました。

Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Yearの推移



為替レート（ニュージーランドドル/円）の推移



短期NZドル債オープン（資産成長型）

【ポートフォリオ】

■短期NZドル債オープン（資産成長型）

主要投資対象である短期NZドル債マザーファンドを期を通じて高位に組み入れ、期末の実質的な公社債組入比率は97.2%としました。

■短期NZドル債マザーファンド

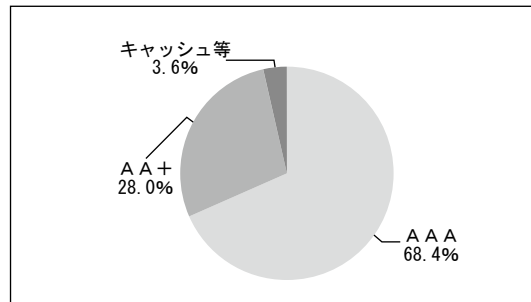
当期の騰落率は、 $\Delta 0.9\%$ となりました。

期初は、3月にRBNZ理事会はサプライズ利下げを実施し、市場を驚かせました。利下げは1-3月期の消費者物価指数の発表される4月に実施されると予想し、デュレーション*を1.5年程度に維持していたことが裏目となりました。その後、4月から6月にかけてはサプライズ利下げの反動で市場が過度な利下げを織り込んだことや、英国の国民投票に対する楽観的な見方が広がり、短期を中心にニュージーランド債券利回りは上昇したため、抑制的なデュレーション戦略がプラスに寄与しました。しかし、英国がEU離脱を決定したため、市場はリスク回避に動き金利低下の圧力が強まったことに加え、RBNZが8月の理事会前に異例の経済アップデートを発表し事実上の利下げ予告を行ったため、RBNZのハト派スタンスが強まったと判断し、デュレーションを1.9年程度に引き上げました。その後、8月の理事会では通貨高への懸念を強めた以外は積極的な緩和姿勢が示されなかったため、デュレーションを機動的に引き下げ、期末のデュレーションを1.8年程度としました。

*デュレーションとは、「投資元本の平均的な回収期間」を表す指標で、単位は「年」で表示されます。また、「金利の変動に対する債券価格の変動性」の指標としても利用され、一般的にこの値が長い（大きい）ほど、金利の変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

格付別資産構成

(2016年9月7日現在)

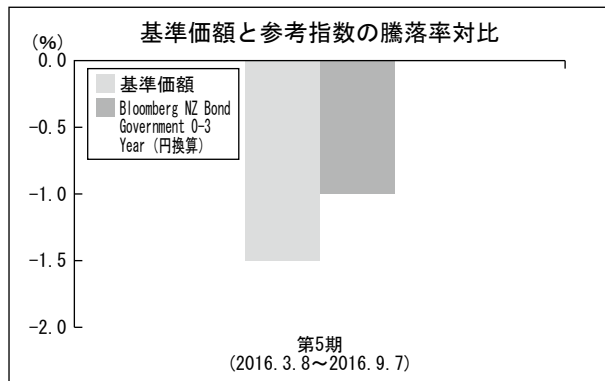


*純資産総額に対する評価額の割合

短期NZドル債オープン（資産成長型）

【ベンチマークとの差異】

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。以下のグラフは、当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率の対比です。



【分配金】

収益分配金につきましては、分配可能額、基準価額水準等を勘案し、見送りとさせていただきます。なお、留保益につきましては、運用の基本方針に基づき運用を行います。

■分配原資の内訳

(1万口当り・税引前)

項目	第5期	
	2016年3月8日 ~2016年9月7日	
当期分配金 (円)	0	
(対基準価額比率) (%)	0.00	
当期の収益 (円)	-	
当期の収益以外 (円)	-	
翌期繰越分配対象額 (円)	977	

※当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

短期NZドル債オープン（資産成長型）

今後の運用方針

■短期NZドル債オープン（資産成長型）

引き続き、運用の基本方針に従い、マザーファンドへの投資を通じてニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品に投資を行うことにより、安定的な利息収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目指して運用を行います。

■短期NZドル債マザーファンド

RBNZはこれまで乳製品価格の低迷や通貨高、低インフレに対応するため積極的な金融緩和を行ってきましたが、8月の利下げを境に軌道修正を行った可能性があります。過熱気味の住宅市場や高水準で流入が続く移住者が国内景気を押し上げていることや、需給環境が好転して乳製品価格が上昇に転じたことなどから、RBNZは過度な緩和へのリスクを意識し始めたと思われる。今後の政策姿勢に注目が必要と考えています。

引き続き、RBNZの政策姿勢を見極めながらデュレーションコントロールを機動的に行う方針です。また、資産配分については、国債、地方債、国際機関債、政府機関債で構成されたポートフォリオを維持する方針です。

1万口当りの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2016年3月8日～2016年9月7日		
	金額	比率	
信託報酬	54円	0.593%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,150円です。
（投信会社）	(26)	(0.289)	ファンドの運用等の対価
（販売会社）	(26)	(0.289)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	(1)	(0.016)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
その他費用	8	0.087	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（保管費用）	(7)	(0.080)	海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（監査費用）	(0)	(0.005)	監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（その他）	(0)	(0.002)	信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合計	62	0.680	

*「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

*期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託受益証券が支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

*各項目ごとに円未満は四捨五入しています。

短期NZドル債オープン（資産成長型）

親投資信託受益証券の設定、解約状況

（2016年3月8日から2016年9月7日まで）

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
短期NZドル債マザーファンド	千口 126,789	千円 119,188	千口 7,612	千円 7,032

利害関係人との取引状況等

（2016年3月8日から2016年9月7日まで）

<短期NZドル債オープン（資産成長型）>

■利害関係人との取引状況

当期における利害関係人との取引はありません。

<短期NZドル債マザーファンド>

■利害関係人との取引状況

当期における利害関係人との取引はありません。

組入資産の明細

2016年9月7日現在

■親投資信託残高

	期首（前期末）	当 期	末
	口 数	口 数	評 価 額
短期NZドル債マザーファンド	千口 287,958	千口 407,135	千円 387,552

*短期NZドル債マザーファンド全体の受益権口数は、830,417千口です。

投資信託財産の構成

2016年9月7日現在

項 目	当 期	末
	評 価 額	比 率
短期NZドル債マザーファンド	千円 387,552	% 100.0
投資信託財産総額	387,552	100.0

*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

1 ニュージーランド・ドル=75.11円

*短期NZドル債マザーファンド

当期末における外貨建資産（774,425千円）の投資信託財産総額（790,637千円）に対する比率 97.9%

短期N Zドル債オープン（資産成長型）

資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2016年9月7日) 現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	387,552,244円
短期N Zドル債マザーファンド(評価額)	387,552,244
(B) 負 債	3,190,480
未 払 解 約 金	1,350,911
未 払 信 託 報 酬	1,823,521
そ の 他 未 払 費 用	16,048
(C) 純 資 産 総 額 (A - B)	384,361,764
元 本	417,523,952
次 期 繰 越 損 益 金	△ 33,162,188
(D) 受 益 権 総 口 数	417,523,952口
1 万 口 当 り 基 準 価 額 (C / D)	9,206円

*元本状況

期首元本額	294,120,450円
期中追加設定元本額	130,902,927円
期中一部解約元本額	7,499,425円
*元本の欠損	33,162,188円

損益の状況

自2016年3月8日
至2016年9月7日

項 目	当 期
(A) 有 価 証 券 売 買 損 益	△ 760,741円
売 買 益	291,069
売 買 損	△ 1,051,810
(B) 信 託 報 酬 等	△ 1,839,569
(C) 当 期 損 益 金 (A + B)	△ 2,600,310
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 19,086,947
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 11,474,931
(配 当 等 相 当 額)	(11,714,518)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 23,189,449)
(F) 計 (C + D + E)	△ 33,162,188
次 期 繰 越 損 益 金 (F)	△ 33,162,188
追 加 信 託 差 損 益 金	△ 11,474,931
(配 当 等 相 当 額)	(12,045,817)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△ 23,520,748)
分 配 準 備 積 立 金	28,758,851
繰 越 損 益 金	△ 50,446,108

*有価証券売買損益には、期末の評価換えによるものを含みます。

*信託報酬等には、消費税等相当額を含めて表示しております。

*追加信託差損益金とは、追加信託金と元本の差額をいい、元本を下回る額は損失として、上回る額は利益として処理されます。

<分配金の計算過程>

信託約款に基づき計算した収益分配可能額及び収益分配金の計算過程は以下のとおりです。

(A) 配 当 等 収 益 (費用控除後)	6,338,493円
(B) 有 価 証 券 売 買 等 損 益 (費用控除後、繰越欠損金補填後)	0
(C) 収 益 調 整 金	12,045,817
(D) 分 配 準 備 積 立 金	22,420,358
分 配 可 能 額 (A + B + C + D)	40,804,668
(1 万 口 当 り 分 配 可 能 額)	(977.3)
収 益 分 配 金	0
(1 万 口 当 り 収 益 分 配 金)	(0)

お知らせ

該当事項はございません。

※各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しております。

短期NZドル債マザーファンド

運用報告書

決算日：2016年9月7日

(第5期：2016年3月8日～2016年9月7日)

当ファンドは、上記の通り決算を行いました。ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	親投資信託
信託期間	無期限
運用方針	主にニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品に投資することにより、利息収益の確保と中長期的な信託財産の成長を目指します。
主要運用対象	ニュージーランド・ドル建ての高格付けの公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
投資制限	<ul style="list-style-type: none">・ 株式への投資は行いません。・ 外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。



大和住銀投信投資顧問

Daiwa SB Investments

東京都千代田区霞が関三丁目2番1号

<http://www.daiwasbi.co.jp/>

短期NZドル債マザーファンド

設定以来の運用実績

決算期	基準価額		Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算)		公社債組入比率	債券先物組入比率	純資産額
		期中騰落率	(参考指数)	期中騰落率			
(設定日) 2014年4月4日	円 10,000	% -	10,000	% -	% -	% -	百万円 50
第1期 (2014年9月8日)	10,024	0.2	9,973	△ 0.3	96.2	-	816
第2期 (2015年3月9日)	10,525	5.0	10,374	4.0	92.3	-	768
第3期 (2015年9月7日)	9,141	△13.1	8,985	△13.4	94.4	-	718
第4期 (2016年3月7日)	9,601	5.0	9,439	5.1	94.9	-	785
第5期 (2016年9月7日)	9,519	△ 0.9	9,349	△ 1.0	96.4	-	790

Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算) とは、Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (ニュージーランドドルベース) を委託者が円換算し、設定日を10,000として指数化したものです。

*設定日の基準価額は設定価額を、純資産総額は当初設定元本を記載しています。

*先物組入比率は、買建比率-売建比率

当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Year (円換算)		公社債組入比率	債券先物組入比率
		騰落率	(参考指数)	騰落率		
(期首) 2016年3月7日	円 9,601	% -	9,439	% -	% 94.9	% -
3月末	9,734	1.4	9,574	1.4	91.3	-
4月末	9,501	△1.0	9,329	△1.2	96.7	-
5月末	9,346	△2.7	9,178	△2.8	97.1	-
6月末	9,207	△4.1	9,047	△4.2	91.0	-
7月末	9,370	△2.4	9,213	△2.4	92.8	-
8月末	9,453	△1.5	9,283	△1.7	96.6	-
(期末) 2016年9月7日	9,519	△0.9	9,349	△1.0	96.4	-

*騰落率は期首比です。

*先物組入比率は、買建比率-売建比率

運用経過

【基準価額等の推移】

期首：9,601円
 期末：9,519円
 騰落率：△0.9%

【基準価額の主な変動要因】

(上昇要因)

ニュージーランド準備銀行（RBNZ）が緩和的な政策スタンスを維持したことや、世界的な金利低下基調の影響を受けてニュージーランド債券利回りが低下（価格は上昇）したことが上昇要因となりました。とりわけ、2016年6月に英国が国民投票で欧州連合（EU）離脱を決定した後に金利低下が加速し、8月のRBNZ理事会で追加利下げが実施されるまでニュージーランド債券利回りの低下基調が続きました。

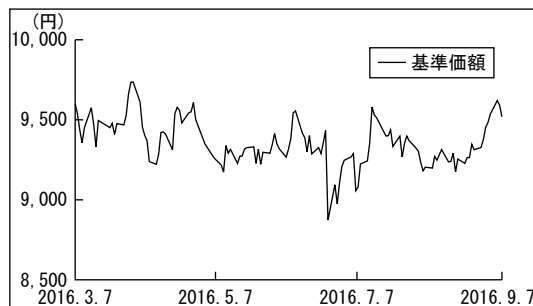
(下落要因)

ニュージーランドドルが期首の77.21円から期末に75.11円へ下落したことが下落要因となりました。ニュージーランドドルは、良好な経済ファンダメンタルズを反映して対米ドルでは上昇基調となりましたが、英国のEU離脱決定や日本銀行のマイナス金利政策の影響からそれを上回るペースで円高が進行し、対円で下落しました。

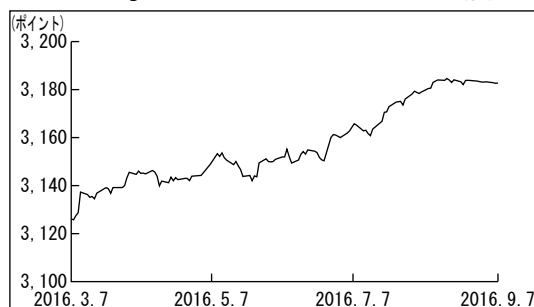
【投資環境】

当期のニュージーランド債券市場は、世界的に金利低下基調が続いたことやRBNZが積極的な利下げ姿勢を維持したことを背景に、ニュージーランド債券利回りの低下（価格は上昇）基調が続きました。

RBNZは3月と8月に利下げを実施し、政策金利を2.5%から2.0%へ引き下げました。3月は利下げを見送るとの見方が優勢でしたが、RBNZはインフレ期待の低下を理由にサプライズ利下げを実施し、短期主導で債券利回りは低下しました。また、日本や欧州がマイナス金利を導入した影響や、米国が利上げを急がない姿勢を示したため、世界的な金利低下基調が持続したことに加え、6月の英国のEU離脱決定を受けて投資家のリスク回避姿勢が強まったことも金利低下の要因となりました。その後、8月のRBNZ理事会では市場の予想通り利下げが実施されたものの、声明文では短期金利見通しが小幅の引き下げにとどまったため、期末にかけて金利低下は一服しました。



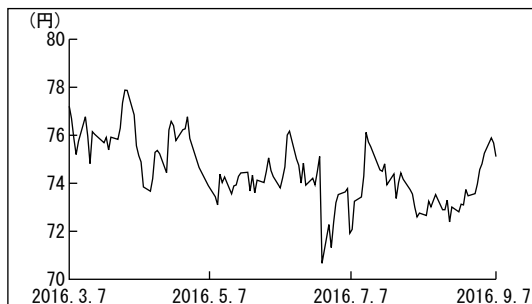
Bloomberg NZ Bond Government 0-3 Yearの推移



短期NZドル債マザーファンド

為替市場では、ニュージーランドドルは良好な経済ファンダメンタルズを反映して対米ドルで上昇となりましたが、日本銀行のマイナス金利導入の影響でそれを上回るペースで円高が進行したことから、対円では小幅下落となりました。

為替レート（ニュージーランドドル/円）の推移



【ポートフォリオ】

当期の騰落率は、 $\Delta 0.9\%$ となりました。

期初は、3月にRBNZ理事会はサプライズ利下げを実施し、市場を驚かせました。利下げは1-3月期の消費者物価指数の発表される4月に実施されると予想し、デュレーション*を1.5年程度に維持していたことが裏目となりました。その後、4月から6月にかけてはサプライズ利下げの反動で市場が過度な利下げを織り込んだことや、英国の国民投票に対する楽観的な見方が広がり、短期を中心にニュージーランド債券利回りは上昇したため、抑制的なデュレーション戦略がプラスに寄与しました。しかし、英国がEU離脱を決定したため、市場はリスク回避に動き金利低下の圧力が強まったことに加え、RBNZが8月の理事会前に異例の経済アップデートを発表し事実上の利下げ予告を行ったため、RBNZのハト派スタンスが強まったと判断し、デュレーションを1.9年程度に引き上げました。その後、8月の理事会では通貨高への懸念を強めた以外は積極的な緩和姿勢が示されなかったため、デュレーションを機動的に引き下げ、期末のデュレーションを1.8年程度としました。

*デュレーションとは、「投資元本の平均的な回収期間」を表す指標で、単位は「年」で表示されます。また、「金利の変動に対する債券価格の変動性」の指標としても利用され、一般的にこの値が長い（大きい）ほど、金利の変動に対する債券価格の変動が大きくなります。

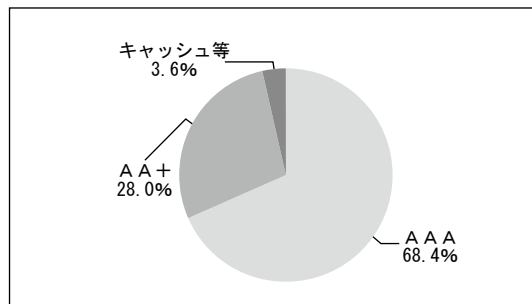
【ベンチマークとの差異】

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

基準価額の騰落率は、参考指数であるBloomberg NZ Bond Government 0-3 Year（円換算）の騰落率 $\Delta 1.0\%$ を 0.1% 上回りました。

格付別資産構成

(2016年9月7日現在)



*純資産総額に対する評価額の割合

短期NZドル債マザーファンド

今後の運用方針

RBNZはこれまで乳製品価格の低迷や通貨高、低インフレに対応するため積極的な金融緩和を行ってきましたが、8月の利下げを境に軌道修正を行った可能性があります。過熱気味の住宅市場や高水準で流入が続く移住者が国内景気を押し上げていることや、需給環境が好転して乳製品価格が上昇に転じたことなどから、RBNZは過度な緩和へのリスクを意識し始めたと見られ、今後の政策姿勢に注目が必要と考えています。

引き続き、RBNZの政策姿勢を見極めながらデュレーションコントロールを機動的に行う方針です。また、資産配分については、国債、地方債、国際機関債、政府機関債で構成されたポートフォリオを維持する方針です。

1万口当りの費用明細

項目	当期		項目の概要
	2016年3月8日～2016年9月7日		
	金額	比率	
その他費用 (保管費用)	8円 (7)	0.081% (0.079)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
(その他)	(0)	(0.001)	
合計	8	0.081	
期中の平均基準価額は9,435円です。			

* 「比率」欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む。）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

* 円未満は四捨五入しています。

売買及び取引の状況

(2016年3月8日から2016年9月7日まで)

■ 公社債

		買付額		売付額	
		千ニュージーランド・ドル		千ニュージーランド・ドル	
外国	ニュージーランド	国債証券	2,636		1,901
		地方債証券	1,264		456
		特殊債証券	325		603 (700)

* 金額は受渡し代金（経過利子分は含まれていません。）

* () 内は償還による減少分で、上段の数字には含まれていません。

短期NZドル債マザーファンド

主要な売買銘柄

(2016年3月8日から2016年9月7日まで)

■公社債

当			期		
買	付		売	付	
銘	柄	金額	銘	柄	金額
		千円			千円
NZ LOCAL GOVT FUND AGENC	6 05/15/21	94,140	NEW ZEALAND GOVERNMENT	6 12/15/17	79,050
NEW ZEALAND GOVERNMENT	6 12/15/17	78,632	INT BK RECON & DEVELOP	4.5 08/16/16	45,802
NEW ZEALAND GOVERNMENT	5 03/15/19	71,882	NEW ZEALAND GOVERNMENT	5.5 04/15/23	36,534
NEW ZEALAND GOVERNMENT	5.5 04/15/23	45,264	NZ LOCAL GOVT FUND AGENC	6 05/15/21	33,438
EUROPEAN INVESTMENT BANK	7.5 12/15/17	24,678	NEW ZEALAND GOVERNMENT	6 05/15/21	27,313

*金額は受渡し代金（経過利子分は含まれていません。）

利害関係人との取引状況等

(2016年3月8日から2016年9月7日まで)

■利害関係人との取引状況

当期における利害関係人との取引はありません。

組入資産の明細

2016年9月7日現在

■公社債

A 債券種類別開示

外国（外貨建）公社債

区 分	当				期				末		
	額 面 金 額	評 価 額		組入比率	う ち BB格以下 組入比率	残存期間別組入比率					
		外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額			5年以上	2年以上	2年未満			
ニュージーランド	千ニュージーランド・ドル 9,500	千ニュージーランド・ドル 10,148	千円 762,288	% 96.4	% —	% 1.2	% 29.3	% 66.0			
合 計	—	—	762,288	96.4	—	1.2	29.3	66.0			

*組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合

*邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

短期NZドル債マザーファンド

B 個別銘柄開示

外国（外貨建）公社債

銘柄	種類	当 利 率	期 額 面 金 額	末		償 還 年 月 日
				評 価 額		
				外 貨 建 金 額	邦 貨 換 算 金 額	
(ニュージーランド・ドル・ニュージーランド)		%	千ニュージーランド・ドル	千ニュージーランド・ドル	千円	
NEW ZEALAND GOVERNMENT	国債証券	6.0000	2,000	2,104	158,058	2017/12/15
NEW ZEALAND GOVERNMENT	国債証券	6.0000	100	118	8,888	2021/05/15
NEW ZEALAND GOVERNMENT	国債証券	5.0000	1,000	1,077	80,926	2019/03/15
NEW ZEALAND GOVERNMENT	国債証券	5.5000	100	121	9,123	2023/04/15
NEW ZEALAND GOVERNMENT	国債証券	3.0000	200	207	15,612	2020/04/15
NZ LOCAL GOVT FUND AGENC	地方債証券	6.0000	1,000	1,046	78,601	2017/12/15
NZ LOCAL GOVT FUND AGENC	地方債証券	5.0000	200	212	15,987	2019/03/15
NZ LOCAL GOVT FUND AGENC	地方債証券	6.0000	1,000	1,151	86,484	2021/05/15
LANDWIRTSCH. RENTENBANK	特殊債券	7.0000	100	102	7,719	2017/05/10
LANDWIRTSCH. RENTENBANK	特殊債券	4.0000	300	314	23,593	2020/01/30
INTL FINANCE CORP	特殊債券	6.2500	500	524	39,410	2017/12/15
EUROPEAN INVESTMENT BANK	特殊債券	7.5000	2,000	2,126	159,709	2017/12/15
COUNCIL OF EUROPE	特殊債券	7.5000	500	539	40,525	2018/04/30
ASIAN DEVELOPMENT BANK	特殊債券	4.1250	500	501	37,647	2016/10/28
合 計	—	—	9,500	10,148	762,288	—

*邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

投資信託財産の構成

2016年9月7日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公 社 債	千円 762,288	% 96.4
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	28,348	3.6
投 資 信 託 財 産 総 額	790,637	100.0

*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

1 ニュージーランド・ドル=75.11円

*当期末における外貨建資産（774,425千円）の投資信託財産総額（790,637千円）に対する比率 97.9%

短期N Zドル債マザーファンド

資産、負債、元本及び基準価額の状況

(2016年9月7日) 現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	844,052,951円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	16,176,531
公 社 債(評価額)	762,288,686
未 収 入 金	53,450,559
未 収 利 息	9,344,464
前 払 費 用	2,792,711
(B) 負 債	53,567,731
未 払 金	53,567,731
(C) 純 資 産 総 額(A-B)	790,485,220
元 本	830,417,853
次 期 繰 越 損 益 金	△ 39,932,633
(D) 受 益 権 総 口 数	830,417,853口
1 万 口 当 り 基 準 価 額(C/D)	9,519円

*元本状況

期首元本額	818,381,045円
期中追加設定元本額	146,737,948円
期中一部解約元本額	134,701,140円

*元本の内訳

短期N Zドル債オープン (毎月分配型)	423,282,393円
短期N Zドル債オープン (資産成長型)	407,135,460円

*元本の欠損

39,932,633円

損益の状況

自2016年3月8日
至2016年9月7日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	19,248,128円
受 取 利 息	19,257,540
支 払 利 息	△ 9,412
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	△24,853,293
売 買 益	28,718,363
売 買 損	△53,571,656
(C) そ の 他 費 用	△ 585,589
(D) 当 期 損 益 金(A+B+C)	△ 6,190,754
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△32,624,574
(F) 解 約 差 損 益 金	7,713,302
(G) 追 加 信 託 差 損 益 金	△ 8,830,607
(H) 計 (D+E+F+G)	△39,932,633
次 期 繰 越 損 益 金(H)	△39,932,633

*有価証券売買損益には、期末の評価換えによるものを含みます。

*解約差損益金とは、一部解約時の解約金額と元本の差額をいい、元本を下回る額は利益として、上回る額は損失として処理されます。

*追加信託差損益金とは、追加信託金と元本の差額をいい、元本を下回る額は損失として、上回る額は利益として処理されます。

お知らせ

該当事項はございません。

※各表の数量、金額の単位未満は切捨て、比率は四捨五入で表記しております。



世界に通用する質の高い
資産運用会社を目指します